

令和7年度 学校評価 春日中学校パワーアッププラン

1 目標・方針

中期的な学校運営の目標・方針	ふるさと春日を愛し、未来に向かって今を生きる生徒の育成 ～ めざす生徒像 「自立」「共生」「チャレンジ」 ～
本年度の重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 誰にでも居場所がある学校づくり 2 主体的に学び続ける生徒の育成 3 教職員が生徒に向き合う環境づくり 4 地域や保護者に信頼される開かれた学校づくり

2 自己評価 (達成状況 A:優れている B:おおむね良好 C:やや改善 D:要改善)

領域	観点	評価項目	達成状況	学校の取組状況と改善の方策
学校運営	生徒指導	①学級経営の充実 ②信頼関係の構築 ③不登校対策 ④指導から支援へ	B	<p>① カウンセリングマインドの涵養や授業改善をテーマとした校内研修を実施してきた。その成果として、「学校評価アンケート」では「先生は質問に丁寧に答えてくれる」96%、「困っているときに相談に乗ってくれる」96%と高い肯定的回答が得られている。日常の授業や生活場面において、生徒一人ひとりに目を向けた関わりや、安心感のある学級づくりが一定程度進んでいると捉えている。学級経営のさらなる質的向上を図っていく。</p> <p>② 生徒の「学校評価アンケート」において、「先生はよいところを認めようとしてくれる」96%、「困っているときに相談に乗ってくれる」96%と、いずれの項目も高い肯定的評価を得た。日常的な声かけや対話を重ねる中で、生徒との信頼関係が着実に育まれてきていると考えられる。引き続き、生徒理解を基盤とした関わりを大切にし、安心して相談できる学校づくりを推進していく。</p> <p>③ 「不登校未然防止マニュアル」の活用や「生徒支援推進委員会」を中心とした支援体制のもと、多様な実態に応じた学びや居場所の確保に取り組んできた。しかしながら、不登校生徒の割合は全国平均を上回る状況にある。生徒一人ひとりの背景や要因は多様であることを踏まえつつ、未然防止の視点を一層強化し、関係機関や家庭との連携を深めながら、継続的・段階的な支援の充実を図っていく必要がある。</p> <p>④ 生徒の「学校評価アンケート」では、「先生はあなたの良いところを認めようとしてくれるか」に96%、「決まりを守っているか」に98%と、高い肯定的回答が得られた。「支援」の視点を大切にした生徒指導が校内に浸透し、生徒の成長を支える関わりにつながっていると考えられる。また、生活指導委員会や生徒支援推進委員会を毎週開催し、発達支持的生徒指導や情報共有と支援方針の協議を行うことで、組織として共通理解に基づいた対応を進めることができた。今後も、チームとして生徒を支える体制の一層の充実を図っていく。</p>
		①授業改善 ②授業研修 ③家庭学習の推進	A	<p>① 生徒の「学校評価アンケート」において、「教師はわかりやすく授業を教えようと努力しているか」の項目では96%が肯定的に回答しており、教職員が授業改善に前向きに取り組んでいる姿勢が生徒にも伝わっていると受け止めている。「授業の内容をよく理解できているか」については89%の肯定的回答となって</p>

				<p>いるが、昨年度より3ポイント減少しているため、工夫・改善を進める。今後は、タブレット端末の効果的な活用や探究的な学習活動を通して、生徒の主体的な学びを一層充実させ、学習理解の向上につなげていく。</p> <p>② 夏季研修会の実施に加え、2・3学期には教職員を3つのグループに分け、研究授業を中心とした校内研修を行った。全教職員が授業を通して学び合う体制を整えることで、授業づくりに対する共通理解を深めることができたと考えている。今後も、教職員同士が互いの実践を見合い、高め合う研修の在り方を継続・発展させていきたい。</p> <p>③ 生徒の「学校評価アンケート」では、「家庭学習に一生懸命取り組んでいるか」の項目において、肯定的回答が62%と、昨年度(71%)から低下している。家庭学習の定着が十分とは言えない現状を踏まえ、学習内容や方法の提示の仕方を工夫するとともに、生徒が目的意識をもって家庭学習に取り組めるような支援が求められる。今後は、教科間の連携や家庭との協力を図りながら、家庭学習の質と量の両面での改善を進めていく。</p>
課題教育	進路指導 キャリア教育	<p>①進路指導</p> <p>②アントレプレナーシップ教育</p>	A	<p>①進路指導担当を中心として、キャリア教育の観点から、全学年で取り組み、1年生から3年間の先を見通した指導を行っている。継続して取り組んでいきたい。</p> <p>②全学年でアントレプレナーシップ教育を推進し、ふるさと春日を愛する心情を醸成するとともに、探究学習を充実させることができた。今年度はさらに3年生では未来を見据えた自分の進路についても探究活動を進めることができた。さらに系統的な取組として実施することを目指していく。</p>

3 学校関係者評価

○全体として、学校の自己評価は概ね妥当であるとする。教育活動の方向性は明確であり、日々の取組が着実に進められていることがうかがえる。

○不登校生徒への対応については、起立性調節障害を含め、原因の特定が難しいケースも多く、学校として苦慮されている状況が理解できる。今後も関係機関との連携を図りながら、丁寧で継続的な支援を進めていただきたい。

○将来の夢や目標を持つ生徒の割合が、学年の進行とともに増加している点は評価できる。これまでのキャリア教育や日常の指導の積み重ねの成果が表れているものと考えられる。

○家庭学習の時間については課題も見られるが、生徒が自ら夢や目標を持つことが主体的な学習態度の形成につながると考えられる。今後も、生徒の内面的な動機づけを大切にしたい取組を期待したい。

4 次年度の改善の方向性

本年度の成果と課題を踏まえ、次年度は「組織的な支援体制の強化」と「生徒の主体性を育む教育活動の充実」に取り組む。不登校支援については、要因の多様化を踏まえ、校内での情報共有を一層丁寧に行うとともに、関係機関との連携を強化し、早期対応と継続的な支援体制の充実を図る。また、キャリア教育の系統性を意識しながら、生徒が将来の夢や目標を具体的に描ける取組を推進する。それにより、生徒の目的意識を高め、主体的な学習態度の育成や家庭学習の充実へとつなげていく。あわせて、業務改善を意識し、教職員が生徒と向き合う時間を確保できる体制づくりを推進する。小さな改善を積み重ねながら、持続可能で安定した学校運営を目指していく。

令和8年3月3日

学校名 丹波市立春日中学校

校長名 小澤 文信

